

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2018年5月16日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て） 主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF） <b>マネー・トラスト・マザーファンド</b> 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分（年3%程度）を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年2回（原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 （複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

# ライフ・ジャーニー

## （かしこく育てるコース）

【愛称：最高の人生の描き方】  
【運用報告書（全体版）】

（2025年3月18日から2025年9月16日まで）

第 15 期

決算日 2025年9月16日

### 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

### ■ 最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				公 組 入 比	債 率	投 証 比	資 券 信 組	託 入 率	純 総 資 産 額
	(分配落)	税 分 配	込 金	期 講 落						
11期(2023年9月15日)	円 13,169		円 0		% 12.2	% 0.0		% 98.2		百万円 18,694
12期(2024年3月15日)	14,128		0		7.3	0.0		99.2		25,209
13期(2024年9月17日)	14,391		0		1.9	0.0		98.7		34,882
14期(2025年3月17日)	14,614		0		1.5	0.0		98.7		44,386
15期(2025年9月16日)	16,364		0		12.0	0.0		99.0		55,063

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指數がないため、ベンチマークおよび参考指數はありません。

### ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		公 組 入 比	債 率	投 証 比	資 券 信 組	託 入 率	券 率
	騰 落	率						
(期 首) 2025年3月17日	円 14,614	% —		% 0.0				% 98.7
3月末	14,930	2.2		0.0				98.8
4月末	14,364	△ 1.7		0.0				98.6
5月末	15,095	3.3		0.0				98.6
6月末	15,327	4.9		0.0				99.2
7月末	15,815	8.2		0.0				98.9
8月末	16,067	9.9		0.0				99.0
(期 末) 2025年9月16日	16,364	12.0		0.0				99.0

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

## 1 運用経過

基準価額等の推移について(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

### 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	14,614円
期 末	16,364円 (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	+12.0% (分配金再投資ベース)

### 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

当ファンドは、主としてE T F (上場投資信託)への投資を通じて世界各国の株式、債券およびリート(不動産投資信託)等に分散投資を行う外国投資信託証券\*を主要投資対象としました。なお、世界の債券に投資するE T Fについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。  
※外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

#### 上昇要因

- 緩和的な金融政策動向や堅調な経済指標などから、先進国株式、日本株式、新興国株式が上昇したこと
- F R B (米連邦準備制度理事会)の利下げ観測や米国内の銀行規制緩和期待などから、金利が低下し、米国債券の価格が上昇したこと

## 投資環境について(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

株式市場においては米国株式や英国株式、新興国株式、日本株式は前期末比で上昇しましたが、欧州株式は前期末比で概ね横ばいででした。債券市場について、前期末比で利回りが低下しました(価格は上昇)。投資適格社債およびハイイールド社債のスプレッド(国債に対する上乗せ金利)は共に前期末比で縮小しました。リート市場では、先進国リートは前期末比で上昇しました。為替市場では前期末比で米ドル・円が下落した一方、ユーロ・円は上昇しました。

### 株式市場

期初、トランプ政権の関税政策や地政学リスクにより、リスク性資産のボラティリティ(変動性)は高止まりしました。特に米国政権による「相互関税」発表後、先進国株式は一時的に大幅調整した後、回復しました。その後期末にかけては、米国金融当局が銀行に対する規制緩和を公表したことや市場想定以上の設備投資動向が示されたことなどから、金融銘柄やテクノロジー関連銘柄がけん引する形で株価が上昇しました。

また、好調な経済指標の発表やF R Bにおける利下げ期待などからリスク選好が加速しました。米国株式、英国株式、新興国株式、日本株式(T O P I X(東証株価指数))は前期末比で上昇しましたが、欧州株式(ユーロ・ストックス50指数)は前期末比で概ね横ばいででした。

### 債券市場

米国国債市場において、短中期ゾーンの利回りは前期末比で低下しました。4月には、米国当局への信認低下を意識した米国国債の売り圧力が働き、金利が大幅に上昇する局面がありました。債券市場では特に長期債や超長期債の調整圧力が続きましたが、6月下旬にはF R Bの利下げ観測や銀行規制緩和期待から金利は低下しました。また、8月下旬にはジャクソンホール会合における利下げ示唆などを受け、金利はもう一段低下しました。

投資適格社債およびハイイールド社債のスプレッドは一時拡大する動きも見られましたが、その後落ち着きを取り戻し、前期末比で縮小しました。

### リート市場

先進国リート市場では、株式の上昇と連動する形で、現地通貨ベースで上昇しました。日本のリート市場も、好調なファンダメンタルズ(基礎的条件)を反映し、前期末比で上昇しました。

### 為替市場

4月以降、米国の通商政策や米国政権への信認低下が意識される中で米ドルの軟化が続きました。その結果、前期末比で米ドル安・円高が進みました。一方で、欧州通貨に対しては、日本の不透明な政治情勢などから円安バイアスが継続し、ユーロ高・円安が進みました。

### ポートフォリオについて(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

#### 当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」を高位に組み入れて運用を行いました。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)

#### ●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的4資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組み入れを行いました。組み入れたE T Fは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

各国の景気や政局を注視しながらも、企業業績および経済指標における底堅いファンダメンタルズ等を勘案した運用を維持しました。

投資行動としましては、5月末、株式全体の構成比率は同水準としつつ、先進国株式(除く日本)のウェイトを引き下げ、新興国株式のウェイトを引き上げました。債券ポートフォリオでは、ハイイールド債券の

ウェイトを引き下げ、米国国債のウェイトを引き上げました。また、6月末にもう一段先進国株式(除く日本)のウェイトを引き下げ、新興国株式および現金へと再配分しました。9月上旬、国内株式や現金、投資適格社債のウェイトを引き下げ、先進国株式(除く日本)のウェイトを引き上げました。

### マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

### ベンチマークとの差異について(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

ベンチマークおよび参考指標を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

### 分配金について(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第15期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,363

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

## ② 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

### ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)

今後、トランプ政権の政策や地政学リスクの影響から短期的なボラティリティ上昇の可能性がある一方、底堅い経済指標や企業決算がリスク性資産を下支えするとみています。新興国市場はボラティリティの高い展開が続く可能性があるものの、企業ファンダメンタルズの堅調さが支えになると考えます。

債券市場では、主要中央銀行の緩和的な金融政策を背景に金利上昇圧力は弱まると思込まれ、金利リスクの調整を慎重に進める方針です。社債市場については、安定的なファンダメンタルズが見込まれる一方、リスクオフ(リスク回避)局面ではハイイールド債などが売られやすいため注意深く推

移を見守ります。

当面は、株式を相対的に高位に保有する一方で、債券の保有は抑制気味とする方針です。ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション(投資価値評価)等に留意しつつ、中長期的な目標リターンの獲得にむけて慎重なリスク量の管理を行いながらリバランス(投資配分比率の調整)を実施していく方針です。

### マネー・トラスト・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。 (適用日：2025年4月1日)

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

### 1万口当たりの費用明細(2025年3月18日から2025年9月16日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	86円	0.568%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は15,170円です。 投信会社:ファンド運用の指図等の対価 販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内のファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(投信会社)	(25)	(0.165)	
(販売会社)	(59)	(0.386)	
(受託会社)	(3)	(0.016)	
(b) 売買委託手数料	—	—	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(—)	(—)	
(先物・オプション)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(—)	(—)	
(公社債)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	0	0.002	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(—)	(—)	
(監査費用)	(0)	(0.002)	
(その他)	(—)	(—)	
合計	87	0.570	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)

### 2 投資先ファンドの費用 0.41%

運用管理費用以外  
0.21%

運用管理費用  
0.20%

### 1 当ファンドの費用 1.13%

運用管理費用  
(投信会社) 0.33%

運用管理費用  
(販売会社) 0.77%

運用管理費用  
(受託会社) 0.03%

その他費用  
0.00%

総経費率  
1.55%

### 総経費率(1 + 2)

1.55%

#### 1 当ファンドの費用の比率

1.13%

投資先ファンドの運用管理費用の比率

0.20%

投資先ファンドの運用管理費用以外の比率

0.21%

※①の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※②の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。なお、運用管理費用以外の費用には、投資先ファンドが投資している上場投資信託(ETF)の管理費用等を含みます。

※①と②の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.55%です。

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

### ■ 当期中の売買及び取引の状況（2025年3月18日から2025年9月16日まで）

#### 投資信託証券

		買付		売付	
		口数	買付額	口数	売付額
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）	口 285,608	千円 4,722,500	口 —	千円 —

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

### ■ 利害関係人との取引状況等（2025年3月18日から2025年9月16日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2025年3月18日から2025年9月16日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

### ■組入れ資産の明細（2025年9月16日現在）

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首（前期末）		期末		
	口数	口数	評価額	組入比率	
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）	2,769,258.9373	3,054,867.5138	54,488,769	99.0	
合計	2,769,258.9373	3,054,867.5138	54,488,769	99.0	

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

#### (2) 親投資信託残高

種類	期首（前期末）		期末	
	口数	千円	口数	評価額
マネー・トラスト・マザーファンド	2,543	2,543	2,543	2,535

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は789,943,336口です。

### ■投資信託財産の構成

（2025年9月16日現在）

項目	期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 54,488,769	% 98.4
マネー・トラスト・マザーファンド	2,535	0.0
コール・ローン等、その他	888,238	1.6
投資信託財産総額	55,379,544	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2025年9月16日現在)

項目	期末
(A) 資産	55,379,544,022円
コール・ローン等	888,238,658
投資信託受益証券(評価額)	54,488,769,435
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	2,535,929
(B) 負債	316,271,962
未払解約金	39,003,904
未払信託報酬	276,064,264
その他未払費用	1,203,794
(C) 純資産額(A-B)	55,063,272,060
元本	33,649,950,595
次期繰越損益金	21,413,321,465
(D) 受益権総口数	33,649,950,595口
1万口当たり基準価額(C/D)	16,364円

※当期における期首元本額30,372,423,623円、期中追加設定元本額4,231,948,426円、期中一部解約元本額954,421,454円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2025年3月18日 至2025年9月16日)

項目	当期
(A) 配当等収益 受取利息	1,650,544円 1,650,544
(B) 有価証券売買損益 売買益 売買損	5,897,022,765 5,962,652,096 △ 65,629,331
(C) 信託報酬等	△ 277,268,058
(D) 当期損益金(A+B+C)	5,621,405,251
(E) 前期繰越損益金	3,840,647,779
(F) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	11,951,268,435 ( 11,003,549,009) ( 947,719,426)
(G) 合計(D+E+F) 次期繰越損益金(G) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	21,413,321,465 21,413,321,465 11,951,268,435 ( 11,003,549,049) ( 947,719,386)
分配準備積立金	9,462,053,030

※有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	1,572,260円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	5,619,832,991
(c) 収益調整金	11,951,268,435
(d) 分配準備積立金	3,840,647,779
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	21,413,321,465
1万口当たり当期分配対象額	6,363.55
(f) 分配金	0
1万口当たり分配金	0

## ■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税引前）

当期  
0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍契約型投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ＥＴＦ）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にブラックロック・グループが運用するＥＴＦであるｉシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンの獲得を目指します。</li> <li>・ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。</li> </ul>
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券の空売りは行いません。</li> <li>・純資産総額の10%を超える借入れを行いません。</li> <li>・非流動性資産への投資比率は、純資産総額の15%以下とします。</li> <li>・同一発行体に対する投資比率は、純資産総額の10%以下とします。</li> </ul> <p>なお、ファンドがＥＴＦを保有している場合は、当該ＥＴＦが保有する有価証券によって投資割合を測定します。</p>
分配方針	分配を行わない方針です。
運用管理報酬	<p>純資産総額に対して 運用報酬：年0.15%程度 (副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。) 受託会社報酬：年間10,000米ドル 管理費用：最大年0.04%程度（最低年40,000米ドル） 名義書換代行費用：年0.01%程度</p> <p>※別途、当ファンドが投資するＥＴＦにおいても運用管理費用がかかります。 ※上記のほか、保管費用がかかりますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。 また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回ることがあります。</p>
その他の費用	ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

## ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）【愛称：最高の人生の描き方】

### ■ 損益計算書（2024年12月31日で終了する期間）

（単位：円）

#### 投資収益：

受取配当金（源泉税控除後： 161,996,139円）

1,184,105,741

収益合計

1,184,105,741

#### 費用：

投資運用報酬

88,891,591

管理事務代行及びファンド会計報酬

25,303,407

保管報酬

13,134,384

監査報酬

4,835,854

トラスティ報酬

1,528,556

弁護士費用

1,208,944

支払利息

519,310

証券代行業報酬

283,087

その他報酬

120,598

費用合計

135,825,731

投資純損益

1,048,280,010

#### 実現損益と未実現損益

実現純損益

投資有価証券

281,075,526

実現純損益

281,075,526

未実現損益の変動額

投資有価証券

6,331,601,441

未実現損益の純変動額

6,331,601,441

実現純損益および未実現純損益

6,612,676,967

運用による純資産の純増減額

7,660,956,977

■ 投資明細表（2024年12月30日現在）

株数	銘柄	純資産 比率 (%)	公正価値 (単位：円)
	上場投資信託（99.3%）		
	日本（99.3%）		
2,077,010	iShares Core Japan REIT ETF	4.9	3,568,303,180
2,406,404	iShares Core MSCI Emerging Markets IMI ETF	9.5	6,846,219,380
4,565,010	iShares Core MSCI Kokusai ETF	34.9	25,290,155,400
45,953,158	iShares Core TOPIX ETF	18.3	13,234,509,504
7,674,073	iShares Core U.S. Treasury Bond	17.4	12,577,805,647
1,014,035	iShares U.S. REIT ETF	4.7	3,402,087,425
3,921,988	iShares USD Investment Grade Corporate Bond JPY Hedged ETF	9.6	6,930,152,796
	日本合計（取得原価 59,027,424,796円）		71,849,233,332
	上場投資信託（取得原価 59,027,424,796円）		71,849,233,332
	投資合計（取得原価 59,027,424,796円）	99.3	71,849,233,332
	負債を上回る現金およびその他資産	0.7	505,063,420
	純資産	100.0	72,354,296,752

# マネー・トラスト・マザーファンド

第9期 (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2016年1月29日)
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■ 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 間		公 組 入 社 比	債 率	純 総 資 産 額
		騰	落			
5期 (2020年10月12日)	円 9,970		% △0.1		% 74.8	百万円 12
6期 (2021年10月12日)	9,962		△0.1		70.1	15
7期 (2022年10月12日)	9,958		△0.0		73.8	15
8期 (2023年10月12日)	9,952		△0.1		75.0	15
9期 (2024年10月15日)	9,949		△0.0		99.7	1,316

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

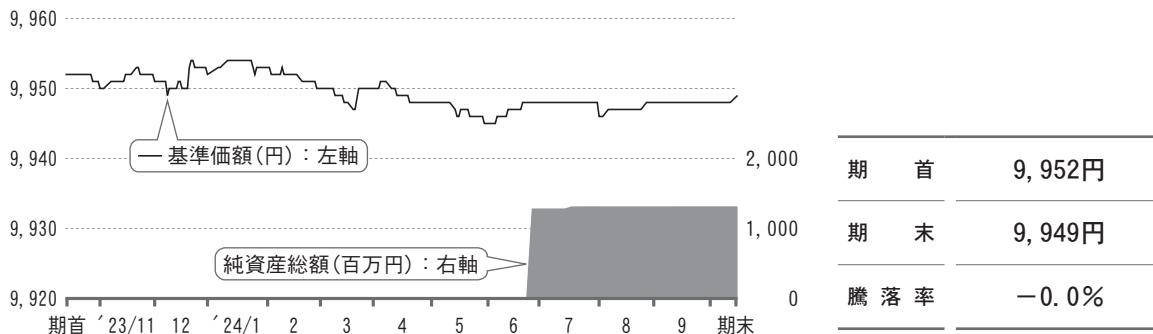
年 月 日	基 準 価 額	期 間		公 組 入 社 比	債 率
		騰	落		
(期 首) 2023年10月12日	円 9,952			% 一	% 75.0
10月末	9,950			△0.0	74.9
11月末	9,951			△0.0	74.9
12月末	9,952			0.0	75.0
2024年1月末	9,953			0.0	74.9
2月末	9,950			△0.0	74.9
3月末	9,950			△0.0	74.9
4月末	9,948			△0.0	74.8
5月末	9,945			△0.1	74.8
6月末	9,948			△0.0	99.7
7月末	9,946			△0.1	99.7
8月末	9,948			△0.0	99.7
9月末	9,948			△0.0	99.7
(期 末) 2024年10月15日	9,949			△0.0	99.7

※騰落率は期首比です。

## 1 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

#### 基準価額等の推移



### ▶ 基準価額の主な変動要因 (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

上昇要因	・日銀が2024年3月にマイナス金利政策を解除し、7月に追加利上げを行ったことを受け、短期公社債や短期金融商品の利回りが上昇したこと
下落要因	・3月中旬まで日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期公社債や短期金融商品のマイナス利回りの影響が残ったこと

### ▶ 投資環境について (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

短期金利は、上昇しました。

円安進行などの影響から物価上昇率が高止まりし、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上の推移となりました。日銀は物価目標の実現が見通せる状況に至ったと判断し、2024年3月に開催された金融政策決定会合で、日銀当座預金付利金利を0.1%に引き上げることで無担保コール（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利を0~0.1%程度で推移するよう促すことを決定しました。さらに、7月の金融政策決定会合で追加利上げを決

定し、無担保コール翌日物金利の誘導目標を0.25%程度としました。

国庫短期証券3ヶ月物利回りは、期初から2024年1月中旬までは概ねレンジ推移となりました。1月に行われた金融政策決定会合後の植田日銀総裁の会見が、政策変更が近づいていることを意識させるタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な内容だったことから、利回りは上昇基調となりました。3月に、日銀がマイナス金利政策を解除したことから、利回りはプラス圏へ上昇し、7月の追加利上げ後にはさらに上昇しました。しかし、日銀の資金供給オペの担保として国庫短期証券へのニーズが強まる一方、発行額が段階的に減額されたことから、期末にかけて利回りの上昇幅は縮小しました。

#### ▶ ポートフォリオについて（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

残存0年から1年3ヶ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

#### ▶ ベンチマークとの差異について（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

ベンチマークおよび参考指標を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 2 今後の運用方針

国内景気は、賃金上昇や経済対策の下で消費が回復しており、堅調な設備投資意欲や海外経済の底堅さも背景に、緩やかな成長軌道が続く見通しです。CPIコアの前年比伸び率は、賃金上昇に伴うサービス物価上昇により+2%程度の伸び率を維持できる見通しです。物価安定の目標達成が視野に入る中で日銀が追加利上げ姿勢を維持していることは金利の上昇要因ですが、短期市場での強い資金運用ニーズが金利上昇を抑制する見込みです。

引き続き、残存0年から1年3ヶ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

#### ■ 1万口当たりの費用明細（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他の費用 (その他の)	0円 (0)	0.000% (0.000)	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他の信託事務の処理等に要するその他費用
合計	0	0.000	

期中の平均基準価額は9,949円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

## ■ 当期中の売買及び取引の状況 (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

## 公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円 2,611,872	千円 — (1,306,000)
	特殊債券	—	— (5,900)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※( )内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

## ■ 利害関係人との取引状況等 (2023年10月13日から2024年10月15日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況  
(2023年10月13日から2024年10月15日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■ 組入れ資産の明細 (2024年10月15日現在)

## 公社債

## A 債券種類別開示

## 国内(邦貨建) 公社債

区分	期				末			
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別	組入比率	2年未満	
国債証券	千円 1,312,000 (1,309,000)	千円 1,311,919 (1,308,918)	% 99.7 (99.4)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 99.7 (99.4)	
合計	1,312,000 (1,309,000)	1,311,919 (1,308,918)	99.7 (99.4)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	99.7 (99.4)

※( )内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

## B 個別銘柄開示

## 国内(邦貨建) 公社債

種類	銘柄	期			償還年月日
		利率	額面金額	評価額	
国債証券	1247国庫短期証券	% —	千円 1,300,000	千円 1,299,928	2024/11/05
	337 10年国債	0.3000	3,000	3,001	2024/12/20
	1226国庫短期証券	—	3,000	2,998	2025/04/21
	144 5年国債	0.1000	3,000	2,998	2025/06/20
	1257国庫短期証券	—	3,000	2,993	2025/09/22
小計		—	1,312,000	1,311,919	—
合計		—	1,312,000	1,311,919	—

## ■ 投資信託財産の構成

(2024年10月15日現在)

項	目	期	末
		評価額	比率
公	社債	千円	%
コール・ローン等、その他		1,311,919	99.7
投 資 信 託 財 産 総 額		4,564	0.3
		1,316,483	100.0

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年10月15日現在)

項	目	期	末
(A) 資産	1,316,483,808円		
コール・ローン等	4,560,734		
公社債(評価額)	1,311,919,329		
未収利息	3,688		
前払費用	57		
(B) 純資産総額(A)	1,316,483,808		
元本	1,323,298,164		
次期繰越損益金	△ 6,814,356		
(C) 受益権総口数	1,323,298,164口		
1万口当たり基準価額(B/C)	9,949円		

※当期における期首元本額16,009,841円、期中追加設定元本額1,307,408,528円、期中一部解約元本額120,205円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	2,543,560円
ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	2,453,434円
ライフ・ジャーニー(充実して楽しむコース)	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド(資産成長型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(3%目標受取型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(6%目標受取型)	100,141円
MF S・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクティティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル(予想分配金提示型)	300,632円
ボンド・ゼロトリプル(資産成長型)	300,632円
テトラ・ネクスト	3,712,251円
MF S米国中型成長株式ファンド(為替ヘッジあり)	1,003,311円
MF S米国中型成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	1,003,311円
PIMCOグローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06(限定追加型)	903,343円
バロン・グローバル・ファーチャー戦略ファンド(資産成長型)	20,087円
バロン・グローバル・ファーチャー戦略ファンド(予想分配金提示型)	20,087円
クライメート・ソリューション・ファンド	1,004,218円
C L O インカムファンド(為替ヘッジなし)	562,928円
C L O インカムファンド(為替ヘッジあり)	50,262円
トータルヘッジ用ファンドSMB 1号<適格機関投資家限定>	341,777,243円
トータルヘッジ用ファンドSMB 2号<適格機関投資家限定>	965,018,095円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2023年10月13日 至2024年10月15日)

項	目	当期
(A) 配当等受取払	益利利息益損等	149,769円
(B) 有価証券売買	売買損益	△ 88,957
(C) その他の費用	買賣損益等	△ 125,546
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 59,810	
(E) 前期繰越損益金	△ 76,265	
(F) 解約差損益	△ 627	
(G) 追加信託差損益金	△ 6,798,528	
(H) 合計(D+E+F+G)	△ 6,814,356	
次期繰越損益金(H)	△ 6,814,356	

※有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ■ お知らせ

## &lt;約款変更について&gt;

- ・デリバティブ取引の利用目的を明確化するため、信託約款に所要の変更を行いました。

(適用日：2023年10月13日)